

英語科「5ラウンドシステム」による授業改善

本校では、令和元年度から令和3年度まで、広島県の指定を受け、英語科では5ラウンドシステムを取り入れた授業を行いました。そして広島県の指定を終えた後も引き続いて5ラウンドシステムを取り入れた授業を行っています。

「5ラウンドシステム」とは、「生徒が学んだ英語を使って自己表現できる英語力を身に付ける」ことを目指し、開発・実践されている英語科のカリキュラムで、生徒が主体的に学び、英語を使って何とか表現しようとする姿が期待される取組です。

5ラウンドシステムの目的は、教科書を繰り返し使うことで、教科書本文を生徒が自己表現で使えるレベルまで染み込ませることです。授業の展開方法については、通常は1年間で教科書の各 Lesson を1回行う形式ですが、本システムでは1年間に教科書を4～5回繰り返し学習する方法です。ただし Round2は1年生のみとする場合が多いため、本校でも2・3年生では実施していません。

[通常]

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Lesson	L1	L2	L3	L4		L5		L6	L7		L8	

[本校が行う5ラウンドシステム(1年生)]

前 期						後 期									
帯活動					パ フ ォ ー マ ン ス テ ス ト	夏 休 み	帯活動					パ フ ォ ー マ ン ス テ ス ト	冬 休 み	ま と め	パ フ ォ ー マ ン ス テ ス ト
R1	R2	R3	R4	R5			R1	R2	R3	R4	R5				
L1	L1	L1	L1	L1			L4	L4	L4	L4	L4				
L2	L2	L2	L2	L2			L5	L5	L5	L5	L5				
L3	L3	L3	L3	L3	L6	L6	L6	L6	L6						
					L7	L7	L7	L7	L7						
					L8	L8	L8	L8	L8						

各ラウンドの学習内容と目的はありながらも、活動を目的とするのではなく、どのラウンドにおいても各言語活動を通して教科書本文をインプットすることを念頭において指導を工夫することが大切と考えています。

また、Round5のリテリングがゴールではなく、教科書本文から離れた様々な状況や場面で意見や感想を言ったりすることで、このラウンドで染み込んだ言語材料を生かした自己表現に挑戦できるよう、ウォームアップ(帯活動)の設定が、同様に

重要であると考えています。

したがって、通常1時間の授業では、帯活動を15分程度、ラウンドを35分程度で構成しています。こうして日々の授業で取り組んでいることをもとにして、目的・場面・状況を明確にしたパフォーマンス課題を設定し、生徒の学びを見取っています。

このように、帯活動・5ラウンドシステム・パフォーマンス課題を通じて一体的な指導を行うことにより、生徒の表現力向上につなげるよう取組を進めています。

[各ラウンドの学習内容と目的]

Round	学習内容	目的
1	リスニングによる内容理解	何度も英文を聞くことで、音声のみのインプットから物語の概要をつかむ。
2	本文の音・文字の一致	英語の音と文字の一致をさせる。
3	音読	発音・イントネーション等を踏まえた音読に取り組むことにより、インプットの質を高める。
4	穴あき音読	自分の表現に結び付けられるよう、フレーズや言語形式に着目させる。
5	リテリング	教科書のストーリーを自分の言葉で伝える。